

令和5年度 香川県総合教育会議 議事録

日 時 令和5年12月13日(水) 16:45~17:30

場 所 県庁本館21階 特別会議室

出席者 香川県知事 池田 豊人
香川県教育委員会 教育長 淀谷 圭三郎
委 員 藤澤 茜
委 員 木下 敬三
委 員 蓮井 明博
委 員 鳥取 美穂
委 員 持田 めぐみ

議 事 I 香川県教育大綱の主な取組状況について
II 昨今の教育に関する事項の取組状況について

1 開会

〔司会(新池 香川県政策部長)〕

ただいまから、令和5年度香川県総合教育会議を開会いたします。

私は本日の会議の進行を務めさせていただきます、政策部長の新池でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定に基づき、公開で行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、開会にあたりまして、知事からご挨拶申し上げます。

2 知事挨拶

〔池田 香川県知事〕

本日はお忙しいところ、香川県総合教育会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、日頃から、淀谷教育長を始め、教育委員会の委員の皆様方、また、職員の皆様方には、日々、本県教育の充実・発展にいろいろな面でご協力をいただいておりますことに、深く敬意を表したいと思います。

最近の教育現場については、少子化という大きな流れと申しますか、状況の変化があります。それからいろいろな地域の状況が、いわゆる核家族でありますとか、そういった昔とはまた違う地域の状況の変化が進んでいるということがあります。

そういう中で、教育現場に携わる先生方、そしてそのサポートをする方々、そして保護者の方々、そして児童や生徒の方々という大きく三つのプレーヤーがいらっしゃるわけですが、そういっ

た関係が随分いろんな変化をしてきているし、これからも流れを見ていかなければならない状況であります。

そういう中で、先般から、一つは、不登校の生徒が非常に増えてきたという所見があり、これは何とかしないといけないという思いを強くいたしましたし、一方で先日、世界の中で、日本の子どもたちの読解力が回復してきているという、そういうニュースもありました。

必ずしも悪い面ばかりがあるわけではなくて、よくよくいろいろ見てみると、良くなってきている部分もありますので、しっかりその両面を見ながら、今後良いところを伸ばし、失ってきているものを取り戻し、というようなことで、一つずつ取り組んでいかないけないというふうに思います。

それともう一つは、コロナのことがあるかと思います。3年間以上のいろんな空白があって、いよいよ取り戻せる時期にはなりましたけれども、やはり3年間という時期が余りに長くて、そのままでは、失ったままのものもあり、失ってそのまま、ない方がよかったものもあると思いますけれども、失って良くないものについては、何とか戻していかないといけない、こういう当面の課題も大きいものがございます。

そういったものに留意しながら、限られた時間ですけれども、ぜひ建設的な意見をいただけますようお願いを申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 出席者紹介等

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

続きまして、本日まで出席いただいております皆様方を、ご紹介させていただきます。

池田香川県知事でございます。

教育委員会からは淀谷教育長、藤澤委員、木下委員、蓮井委員、鳥取委員、持田委員でございます。

本日の資料ですが、次第にありますとおり、資料1から6を配布しております。

議事に入るにあたり、総合教育会議についてご説明いたします。

総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、すべての地方公共団体に設置が義務づけられており、知事が主宰いたします。

また、お手元に配付しております香川県教育大綱につきましては、令和3年度の総合教育会議においてご議論いただき、令和4年3月に策定しております。

4 会議事項

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

本日の議事は、香川県教育大綱の主な取組状況及び昨今の教育に関する事項の取組状況の2点いたします。

まず、議事Ⅰ『香川県教育大綱の主な取組状況』について、教育委員会及び知事部局から報告を行い、その後、ご意見をいただきたいと思っております。

それでは、教育委員会からのご報告をお願いします。

〔近藤 教育委員会事務局総務課長〕

教育委員会事務局総務課長の近藤と申します。よろしくお願いいたします。

お手元の資料 4『香川県教育大綱の主な取組状況』により、教育委員会における取組状況について簡略にご説明します。

この資料については教育大綱の柱となる項目ごとに、令和5年度の主な取組内容と、本県の状況の推移、今後の方向性などを記載しております。

1 ページからが、学力の育成です。

2～3 ページをお願いします。全国学力学習状況調査に係る本県の平均正答率と全国平均との差の推移をお示ししておりますが、2 ページが小学校6年生、3 ページが中学3年生の状況です。いずれも近年は低下傾向が続いておりましたが、昨年からは中学生の英語を除き全国平均以上となっております。今後は、読解力の育成や、言語活動の充実した取組を進める一方、英語力については小・中学校の連携強化をしながら高めていく必要があります。

4 ページをお願いします。ICTを活用して効果的に指導できる教員の割合ですが、機器整備の進展により全体的に増加傾向がうかがえることから、今後はICT活用教育の効果的な推進に向け、教員の更なる支援に取り組む必要があります。

5 ページからが、心の育成です。

6 ページをお願いします。自分によいところがあると思う児童生徒の割合は、小・中学校ともに、全体的に上昇しているものの、依然として点線の全国平均を下回っており、自発的、主体的な活動を今後一層充実させる必要があります。

7～9 ページをお願いします。7 ページはいじめ認知件数、8 ページは暴力行為発生件数、9 ページは不登校児童生徒の推移をお示ししておりますが、いずれもすべての校種で増加傾向であり、特にいじめについては、積極的認知に関する理解の広がりなど、不登校については、コロナ禍の学校生活での交友関係の難しさなどが考えられることから、市町やスクールソーシャルワーカー等と連携し、その対応促進や支援に引き続き取り組む必要があると考えております。

11 ページからが、体の育成です。

飛ばしまして、16 ページからが、郷土を愛し、郷土を支える人材の育成で、資料をご用意させていただいております。

19 ページからが、安全・安心で、魅力あふれる学校づくりです。

20 ページをお願いします。教員の採用倍率ですが、平成23年から27年度までは全国平均を下回ったものの、その後は上回っており、近年は、4～5倍の水準で推移しております。この水準が、今後何となく維持できるよう、引き続き、教員定数の確保、教員採用試験の見直し等に取り組む必要があると考えております。

21 ページからが、家庭や地域での学びの環境づくり、23 ページからが、スポーツの振興、最後に25 ページからが、文化芸術による地域づくりで、指定文化財の件数等の推移を掲載しております。

以上、非常に簡単で恐縮ですが、教育委員会からのご説明は以上です。よろしくお願いいたします。

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

続きまして、知事部局からの報告をお願いします。

〔藤倉 香川県政策課長〕

政策課長の藤倉と申します。

資料5『令和5年度香川県教育大綱の主な取組状況（知事部局）』に沿ってご説明申し上げます。

1ページ、2ページをお開きください。まず私学の振興でございまして、各種の補助を総合的に行うことで、私立学校の教育条件の維持向上、保護者負担の軽減などを図っております。

3ページ、4ページをお開きください。次に、インターネットの適正利用とネット・ゲーム依存予防対策の推進でございまして、依存予防対策に関して普及啓発するとともに、利用を見直したい方が一定期間ネット環境から離れた生活を送る、オフラインキャンプを実施いたしました。

5ページ、6ページをお開きください。次に、魅力ある大学づくりでございまして、地域を支える人材の育成定着に向けて、若者から選ばれる魅力ある大学づくりを支援してございまして、産学官でプラットフォームを設立して、進学や就職面での取組みを展開しております。

7ページ、8ページをお開きください。次に、家庭の教育力の向上でございまして、乳幼児や保護者が相互に交流を行える場所の開設や、相談助言対応などを行う市町に対し、補助をしております。

9ページ、10ページをお開きください。次に、地域の教育力の向上でございまして、日中に保護者が家にいない小学生を預かる放課後児童クラブを運営する市町に補助し、子どもたちの安全安心な活動拠点づくりを行っております。

11ページ、12ページをお開きください。次に、文化芸術を担う人材の育成でございまして、子どもや若者をはじめ、県民が文化芸術に触れる機会の充実などを図っております。

13ページ、14ページをお開きください。次に、文化芸術を育む環境の整備、文化芸術による地域づくりでございまして、瀬戸内国際芸術祭や県立文化施設の特色に沿った展覧会を開催いたしまして、人々との交流や、地域の活性化に繋がる取組みを進めております。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

それでは、ただいまの教育委員会及び知事部局からの報告を含め、ご意見やご質問をよろしく願います。

〔藤澤 教育委員〕

夏休みの子どもの宿題で、統計グラフで、もっと学校が楽しくなるには何があったらよいか、を調べてみた中で、子どもたちが今何を望んでいるのかを聞いてみたら、「もっと楽しくなりたい」という要素の項目の回答で、もっと人間関係が深くなるようなイベントが欲しいとか、もっと昼休憩とか休み時間に同級生と遊びたい、上下関係の先輩後輩と遊びたいといったものがたくさんありました。子どもたちがそれだけ対人関係を望んでいたりと、自分の趣味の活動を見せたいというように、お互いの繋がりを求めていることを感じる事ができ、面白かったところです。

いろいろな取組みが行われておりますが、子ども自身がそのような思いを持っていることを情報提供させていただきました。

〔木下 教育委員〕

働き方改革が叫ばれている中で、当然、効率化を図らないと、これまで以上の教育の質は保障できないわけです。やはりICT教育が一番重要になってくると思いますが、導入にあたっては、プラットフォームを共通化し、どの先生が、どこに行っても、どのパソコンを使っても、今まで自分がやっていたような環境で作業できるようにするのが望ましいと思います。ぜひ、誰もが抵抗なくICT関連機器を活用できる環境づくりを目指してほしいと思います。

もう一つは食育の問題ですが、小学校4年生の血液検査で、2022年の2型糖尿病リスクの割合が16.2%となっており、これまでの検査の中で最高だそうです。考えられる理由としては、コロナ禍で運動不足になっており、自宅から出ずに食べたいものは何でも食べるといった結果だと思っています。

ある文献を読んでいますと興味深いことが書かれていました。ファーストフード店成功の法則というものがありまして、今、巷で繁盛している外食フード店というのは、ハンバーガー、フライドチキン、ポテトチップス、フライドポテト、牛丼、ラーメン、ピザで、これらに全部共通しているのは、脂肪分がたくさん含まれているということです。この脂肪分というのは、脳の報酬系に作用して、それを食べると皆さん非常に満足します。そういう法則に則ってお店が繁盛しているそうです。ちなみにある品目について脂肪分を若干落としたところ、売り上げが落ちたというデータもあるそうです。

ですから、たまにはファーストフード店というのもいいと思いますが、できるだけ家庭で食事をすればよいのではないかという提言がありましたので、この場で報告させていただきました。

〔蓮井 教育委員〕

郷土を支える人材の育成について、少子化がこれだけ進んでおり、ますます人材の育成は重要だと思います。確かに大学においては、魅力ある大学ということで大学・地域共創プラットフォーム香川が頑張ってくれています。最近は大学祭で地元企業を紹介するイベントなども行い、かなり盛り上がっていました。ただ、それだけでは不十分だと思います。中学生や高校生などの若い段階から地元をもっとよく知る、地元の企業・産業を知る、こういったことが非常に大事だと思っています。

その点、今、三木高校、高松商業高校、志度高校、飯山高校、高松中央高校で取り組まれている、いわゆるインタビューシップという、就業体験まではいかないけれども地元の企業に出向いていろいろな話を聞く、先輩たちの話も社員、社長の話も聞くということで、地元の産業・企業に小さい頃から馴染んでいくという取組みは非常に効果的だと思うので、こういった取組みを引き続き拡大していただきたいと思います。

〔鳥取 教育委員〕

学力の育成のところ、読解力の育成というのがありますが、たくさんの本に触れて、読解力をつけていくのは大事だと思っています。同時に、資料の8ページに暴力行為発生件数に関するデータがありますが、暴力行為の発生件数が増えていることと関連して表現力が大事であると思います。

それは、先日、新聞で、他県ですけれども、生きる教育というものに取り組んでいる小学校の例が載っており、小・中学校と続けてプログラムを組んでやっていくのですが、その中で重視しているのが、表現力の育成でした。いろいろな悩みや困っていることを言葉にして表現できるか、逆に言葉にできないと暴力になっていく場合があるのではないかということであり、丁寧に言葉で表現する力が

身につくことによって、子どもたちからの相談が増えたということでした。実はこんなことで困っているとか、こういうことに腹が立っているとか、そういう相談をしてくれるようになって、徐々に学校が活力を取り戻していくという話でしたので、表現力も非常に大事なのかなと思いました。

〔持田 教育委員〕

学力の育成について、学力調査の平均正答率の推移を見せていただきましたが、実際の正答率の分布がどのようになっているかといったことの経年変化もしっかり観察し、今後の戦略を練っていく必要があるのではないかと考えています。

また、きめ細やかな教育という意味では、欧米並みの30人未満のクラス編成を目指していくとか、英語とか数学のように学力差のつきやすい科目については、人数を減らさなくても習熟度別クラスを導入して、学力に応じた授業を受けることができれば、多様な子どもたちすべてが学校の授業を受けて、わかったという学びの喜びを感じられる環境づくりに繋がるのではないかと考えています。

〔淀谷 教育長〕

学力の分布の話は私も気になっており、推移を掴んでいく必要があると思っています。平均正答率をずっと見ていますが、おそらくバラつきが出てきているのではないかなと思いますので、これをしっかりと見た上で授業改善に繋がった方がいいと思っています。

もう一点、よく保育所の待機児童数などが発表・報道されており、放課後児童クラブでは待機が発生しているとよく聞くけれども、どんな状況だろうか、というのがあります。もし待機が発生している状況であれば、それだけニーズがあるということですから、これも広い意味での居場所づくりのようなことにも繋がりますので、対応する必要があると思っています。

〔池田 香川県知事〕

教育委員会の方から説明があった資料4の、6ページのところに、自己肯定感というのがあります。私は1年前から、ずっとこれが頭に残っていて、全国に比べると、香川の子どもたちの自己肯定感が低いというようなことがよく話題になりますけれども、これは本当にそうなのだろうかという気がずっとしています。やはりこういう調査に対しての地域的な個性みたいなもので、少し遠慮ぎみなところがあったりするところが出てくる場合もあり、このデータを以ってこういう分析結果になるというのが果たしてどうなのかなってというのは、すごく頭に残っておりますので、もう少し検討がいるのではないかなと思います。

それからもう一つは、20ページに教員の倍率の推移がありますが、全国より一時、下がったけれども、持ち直していますよね。素晴らしいですけど、この辺の取組みなどが分かれば、今後のことや、他の分野にも参考になるかなと思いますので、後でも結構ですけど、また教えていただければということでございます。

以上です。

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

ありがとうございました。

それでは、議事Ⅱに移りたいと思います。

議事Ⅱ『昨今の教育に関する事項の取組状況』でございますが、子どもと教師のウェルビーイング実現のための環境整備につきまして、ご意見をいただきたいと考えております。

それでは、教育委員会からのご報告をお願いします。

〔近藤 教育委員会事務局総務課長〕

それでは、資料6についてご説明します。

1ページをお願いします。子どもたちを取り巻く環境は急速に変化しており、新たな時代に対応した教育の実現を求められております。今年6月に策定された新たな国の教育振興基本計画では、2つの総括的なコンセプトとして、2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会のづくり手の育成と、日本社会に根差したウェルビーイングの向上が示されております。県教育委員会でもこれらに基づき、子どもと教師のウェルビーイング実現に向けて環境整備を進めております。

2ページをお願いします。子どものウェルビーイングを確保するためには、幸福感、自己肯定感、自己実現などが重要になります。また、学校は子どものウェルビーイングを高める場となりますが、子どもを支える教師についてもウェルビーイングを確保する必要があります。教師については、子どもの成長実感、保護者や地域との信頼関係などが重要です。

3ページをお願いします。子どもの幸せや豊かさの向上を図るための具体的な取組みとしては、子どもの権利利益の擁護、主観的なウェルビーイングの向上、青少年健全育成、いじめの対応等が挙げられます。この結果、普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある、自分にはよいところがあるなどを感じている子どもの割合を増やしていくことが求められています。

4ページをお願いします。子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、よりよい教育を行うためにも教師のこれまでの働き方を見直し、ウェルビーイングを確保することが重要です。今年8月の国の緊急提言で3つの施策と取組みの具体策を掲げており、県教育委員会ではこれらの取組みを進めているところです。

5ページをお願いします。県教育委員会では平成30年に教職員の働き方改革プランを定め、さらに令和3年度に香川県教育基本計画に学校における働き方改革の推進を盛り込み、引き続き取り組んでおります。数値目標の、県立学校教職員の年次休暇の年間取得日数は、令和4年度は12.1日まで達成しております。

6ページをお願いします。一方、1か月の時間外在校等時間が45時間を超える本県の教職員の割合は、国が行った令和4年度の調査では、小・中学校、高等学校のいずれも全国平均を上回っている状況です。ただ、令和4年度から5年度にかけて、若干ですが減少している状況にもあります。

7ページをお願いします。県教育委員会としては、子どものウェルビーイング実現のため、子どもの幸せや豊かさの向上が必要であり、確かな学力、豊かな心の育成等を保護者や地域とともに進めたいと考えております。また、それに直結する教師のウェルビーイング実現のためには、教師を支える体制の強化・充実が不可欠であり、教員定数等の拡充、ICTによる効率化、保護者等への理解促進を進めたいと考えております。

以上簡単ですが、ご説明を終わります。

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

それでは、今ご紹介しました県の教育委員会の取組みなども含めまして、ご自由にご意見等いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

〔藤澤 教育委員〕

先ほど、知事から自己肯定感のお話もあり、私も少し疑問に思っております。思春期になるとメタ認知もあり、他の人と比べて自分はこうだと考えられる世代だったりもするので、その時期に自己肯定感が下がるのは成長段階で当然のことと思います。よく思春期の子どもには、それだけ脳が発達して他の人と比べる力ができたということだね、その中で自分の強みって何だろう、という話をよくしている、と思いながら聞かせていただきました。

ウェルビーイングの中で、子どもの自己実現を考えたときに、本当に地域、家庭、学校、担任によって対応してもらえることは全く異なってくると感じています。放課後児童クラブの話も先ほどありましたが、小学6年生まで受け入れてもらえる地域もあれば、小学2年生で定員がもう一杯となり、子ども1人で留守番というような地域もあると感じており、それだけ共働き家庭も増えています。また、放課後も習い事などをさせることにより子どもが1人で過ごさないようにしている家庭も多く、子どもたちがみんな習い事をしていて一緒に遊べないとか、公園で遊ぼうとしたらボール遊びが禁止されている、というように、本当に子どもたちが自分たちでやりたいことを、どの地域でもやれるのかというと、まあまあ差が生じているように感じます。

ウェルビーイングというのは福祉の方でもあるのですが、そちらでは、子ども以外も含め、自立という支え合いができる力を持つことも大事なことのひとつと言われていたりもするので、子どもたちがやりたいと思うことを、学校、家庭、地域で支え合いながら、どの子も平等に実現できる機会を、どう作っていったらいいのかを日々考えさせられます。

〔木下 教育委員〕

教師の立場で考えてみると、私は一つには、教師ごとの個人差をいかに活用できるかっていうのが一つの鍵ではないかとは思いますが。昨年度の総合教育会議などでも取り上げられましたが、例えば今、部活動をアウトソーシングするという動きが出ており、教師のティーチングロードを軽減するためですけれども、中には、私が教えたいんだ、という先生方もたくさんいらっしゃいます。ただ、中には嫌だという人がいるから、そこで非常に問題になるわけです。自分が興味を持ってやりたいことというのは全く苦痛にならず、そうでない場合はもう本当に1分1秒でもやりたくない、というようになっているので、例えば、部活動でも興味を持っている人は積極的にそちらに振り分けて、個別にオーダーメイドの取組みができるようにすれば、互いにうまく補い合って全体の業務量を少しでも縮減できるような気がします。

あと、子どもの立場にとってのウェルビーイングってというのは、これが全て実現できれば、いじめなどはそもそも起きるわけがないのですから、子どもたちの考え方を、私たちがどのように導いていくかという、その一点にかかっているのだらうと思います。

教師の話に戻りますが、知事が教師の採用倍率が若干回復してきたとおっしゃいましたが、教育委員会の中でも、倍率が例えば3倍に落ちると教師の質が極端に落ちる、いわゆる閾値ですが、それを

避けるためにも、ある程度の倍率は絶対に必要だという報告もありますので、ぜひともこのあたりは維持していただきたいと思います。これは教師に限らず、今どの分野でも少子化が進んでいますので、民間企業でもそうですし、学校と民間との人材確保競争になっているわけです。そのあたりを十分考慮して、いい先生が来てもらえるような方策を考えるのも大変重要なことだと思います。

〔蓮井 教育委員〕

子どものウェルビーイングの確保もこの資料のとおりであり、本当にこれを進めていただきたいのですが、特に、不登校といじめの伸びが非常に顕著になっていますので、このあたりの対策が急務であると思っています。

それから、教師のウェルビーイングの確保というの、抜本的に効果を求めるのであれば、ICTをいかにうまく使っていくかがポイントになると思います。とりわけ2番目にある働き方改革のところで三つ目の丸にありますけれども、時間外勤務の抑制等に向けた学校業務の検証・見直し・環境整備、いわゆる校務分掌と言われているものですが、やはり先生は本当にいろんなことに時間を取られていると思います。このバックオフィス事務の分野はITの出番であり、とりわけ情報の共有化・発信力というのはまさにここを活用していくことが重要です。できるだけ先生方の時間に余裕を持たせて、子どもたちに向き合う時間を作っていく、そのためには、こういう業務の効率化に一段とスピードを上げていただきたいと思っています。

〔鳥取 教育委員〕

この資料を見て、こうなったらいいなと思いますが、教師を取り巻く環境として、育休を取る男性職員が増えていることや、年休取得率も上がっていることなど、いろんな意味で、そのような環境を整えてくれていることに非常にありがたいと思っております。それから、教員だけでなく支援スタッフの充実も現場では非常にありがたいことであり、大変感謝していたところですが、一方で、全人的といいますが、トータルで子どもに関わることの大切さがあると思います。朝から放課後までずっと子どもを見るというところで、担任の先生の負担はかなり大きくなっていると思っています。

こういった資料の中に数字として表れてくるものももちろん大事ですが、現場ではどういう意見を持っているか、子どもも先生方も何に困っているのか、どういう悩みがあるのかというのがもう少し分かってくると、対応の仕方が少し違ってくると思っています。新しい教育として、例えば、小学校であれば英語やプログラミングが入ってきたりしていますが、私も実は全くICTが使えないので、自分が時間講師をしているときに大変悩みました。そこでICTをどう活用すればどう効果的な授業ができるのか、うまく活用する方法などを、学校の中だけでなく外部の指導や研修で学ぶ機会があればとてもありがたいと思っています。

英語に関しても、小・中学校の連携により非常に効果を上げた学校の例もあると伺っています。今は、忙しい小学校の先生と中学校の先生が話をするゆとりがないという状況ですが、今後そういう機会が増えてほしいと願っています。

〔持田 教育委員〕

まず、子どもたちのことですが、学力の定着のためには、学校の授業以外に家庭での自主学習が重

要となってくると思います。いろいろな誘惑がある中で、家庭で子どもたちが自主的に計画性を持って学習するということがなかなか難しいものですから、結局、塾に行かせて、そこで受験やテストの対策をしているという家庭が多いのではないかと思います。そうしますと、塾に行かせられる親の経済状況や、意識の違い、あとは送迎ができるかどうかといったような、家庭資源の違いが子どもの学力の定着に大きな影響を与えていくのではないかと思います。したがって、家庭環境の違いにかかわらず、本人たちにやる気さえあれば勉強できるような環境として、公共施設に自由に勉強できるような自習スペースをもっと増設していただいて、そこで勉強できるようにするのはいかがかなというふうに思っています。そういう場所があれば、子どもたちが集まって、対面でのコミュニケーションの場になったり、居場所づくりにもなりますし、そういう様子を見ている大人たちが刺激を受けて、生涯教育に繋がることも期待できるのではないかと思います。

あとは学校の安全・安心という面ですが、夏場の熱中症対策について、保護者の立場としては大変懸念を感じています。小学校までは赤白帽子とか通学帽をかぶって活動するということになっていますが、中高生になると、帽子をかぶらなくなるようで、真夏の暑い時はもちろん、もう5月ぐらいの日の高い時から帽子もなく、運動場で体育祭の練習をしたり、部活でも被っていたりいなかったり、というような様子を目にすると、暑い中とても心配になります。ですので、子どもたちの学校での安全面の対策として、屋外では帽子や日傘や日除け等での安全管理に、早急に取り組んでいただきたいと思っています。

先生方のウェルビーイングについては、もちろん業務量の削減が第一の課題で、難しいことかとは思いますが、先生方が日々取り組まれている仕事内容を明確化して、減らせるものは思い切ってほとんど減らしてしまう、残さないといけないもののうち、どうしても現場の先生方が取り組まないといけない、代替がきかないような仕事のみを先生方の仕事として残して、残りは事務方の仕事として割り振って、今度は事務職員の数を増やし、学校や教育に関係する大人の数を増やして、先生方の業務の負担を緩和していき、よりよい学校づくりにつなげていくのがいいのではないかと考えています。

あと、先ほど少しお話もありましたが、先生方が教員になられる志望理由というのはさまざまだと思いますので、授業とか部活とか、個々の先生方が注力したい分野について、ある程度裁量の余地を持たせるということが、先生方の働きがいやウェルビーイングに繋がるのではないかと考えています。

〔淀谷 教育長〕

教育委員会でやらなければならないことが多く、プレッシャーがありますけれども、いろんな教育政策上の課題がある中で、知事も仰るように、子ども、教師、保護者、もう一ついうと地域社会、そのあたりが学校教育のプレイヤーになろうかと思います。これらの政策については、すぐには難しいかもしれませんが、一つ一つ具体的な対策をとっていければと思います。そのためにはやはり人も、お金も必要になりますので、よろしく願いできたらと思います。

〔池田 香川県知事〕

やはり、今日、教員の方の教育以外の部分をいかに省力化、楽にできるかっていうのがポイントだという意見もたくさんありましたので、そこは一緒に取り組んでいかないといけないということは、

強く思いました。

また、子どもたちの居場所づくり、勉強もそうですし、いろんな放課後活動もそうですけど、そういったものにも特に留意が必要だなということを、改めて思ったところであります。

貴重なご意見をありがとうございました。

〔司会（新池 香川県政策部長）〕

ちょうど終了時刻になりましたので、これもちまして、香川県総合教育会議を閉会とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。